

すすめ！！びわっこ探検隊 活動レポート

夏季

公益財団法人 淡海環境保全財団

びわ湖の岸辺でガサガサ体験、外来種やゴミ問題を学び、びわ湖の“今”を体験しよう！！



【すすめ！！びわっこ探検隊について】

淡海環境保全財団では、子どもたちが自然環境に興味関心を持つきっかけづくりとして、県内在住の小学4年生から中学2年生を対象に、びわ湖をはじめとする滋賀県の豊かな自然環境や自然と人の共生、文化などを学び体験するプログラムを年間4回開催しています。

今回、夏季プログラムを開催しましたので、その様子をお伝えします。

【夏季プログラム】

開催日 令和7年(2025年)7月26日(土) 9:00~12:00

場 所 滋賀県立琵琶湖博物館および周辺の湖岸

講 師 滋賀県立琵琶湖博物館 鈴木主任学芸員

(活動内容)

- 1 びわ湖に入って生き物採取（ガサガサ体験）
- 2 採取した生き物の観察、解説
- 3 漂着したゴミの回収、記録
- 4 びわ湖の外来種問題に関する講義
- 5 活動のふりかえり

○ガサガサ体験（生き物採取・観察・記録）

参加者の皆さんは、ライフジャケットと胴長に身を包み、琵琶湖博物館前のびわ湖岸で生きもの採取を行いました。

水草やヨシが生い茂る水辺を網で“ガサガサ”すると、トンボの幼虫のヤゴや、ウシガエルのオタマジャクシ、ライギョの幼魚などを採取でき、観察ノートに記録するとともに、鈴木主任学芸員から詳しく解説をいただきました。思いのほか「外来種」が多い結果となりましたが、直に自然に触れながら、まさにびわ湖の“今”を知ることができました。



○漂着ゴミの清掃・記録

生き物採取をしながら、びわ湖の湖岸に漂着したゴミを回収して記録しました。空き缶や釣り糸などのゴミによっても水生生物やびわ湖の生き物の生息環境が脅かされていることも実感することができました。



○びわ湖の外来種問題に関する講義

フィールドワークでびわ湖に触れた後は、博物館の実習室にて鈴木主任学芸員から外来種に関するお話をお聞きしました。外来種はびわ湖の在来種にどんな影響を及ぼすのか、どうやってびわ湖に入って来るのかなど、詳しく教えていただきました。



活動のふりかえり

暑い夏の活動でしたが、8名の参加者は元気に活動してくれました。ガサガサでの生き物採取で実際に外来種を見た後に詳しく解説を聞いたことで、「びわ湖の外来種問題を実感することができた！」という感想がありました。皆さん、お疲れ様でした！！

次回の秋季プログラムは、10月18日（土）に東近江市の雪野山をフィールドに、山のプログラムを開催します。是非御参加ください。



夏季プログラム修了